

未来の担い手と  
創造する  
持続可能な  
コミュニティ

地域に開かれた  
仕事づくりを通じて

 公益財団法人トヨタ財団

〒163-0437  
東京都新宿区西新宿2-1-1  
新宿三井ビル37階  
公益財団法人トヨタ財団 国内助成プログラム

TEL 03-3344-1701

FAX 03-3342-6911

MAIL [gp4ca@toyotafound.or.jp](mailto:gp4ca@toyotafound.or.jp)

URL <http://www.toyotafound.or.jp/>

発行  
2019年8月

企画・デザイン  
NPO法人Co.to.hana

トヨタ財団 国内助成プログラム 2019年度成果報告書

# トヨタ財団について

トヨタ財団は、トヨタ自動車によって1974年に設立された助成財団です。  
世界的な視野に立ち、長期的かつ幅広く社会活動に寄与するため、生活・自然環境、社会福祉、教育文化などの領域にわたって時代のニーズに対応した課題をとりあげ、その研究ならびに事業に対し助成を行っています。

## はじめに



本冊子には、国内助成プログラム2015・2016年度「そだてる助成」の助成を受けた団体が、2年間の助成期間を通じて、掲げた地域課題に対し何に取り組み、どのような変化が起きたのか、団体とトヨタ財団のプログラムオフィサーがそれぞれに振り返り、そこから得た学びをまとめた内容が収録されています。

各地で実施されたプロジェクトは、「課題」という側面だけを見ると、地域性こそあれ類似したものが多く見えますが、一つ一つの取り組みを紐解いて見ていくと、それぞれにオリジナリティあふれる着想や工夫、戦略性が見て取れ、とても面白い発見があります。今回はその面白さを「人」に焦点を当てながら可視化することにチャレンジしてみました。各プロジェクトにおいて、取り組みを通じてどのような人間模様が描かれ、どのような変化や成果が生まれたのか。そのあたりにもぜひ注目しながら、ご覧いただくと嬉しいです。

併せて、冊子の後半には、2017年度「しらべる助成」および「発信・提言助成」の事例も掲載しています。持続可能なコミュニティの実現に向け、各地で様々な取り組みを試行されていらっしゃる方々のご参考になれば幸いです。

p.04 2015・2016年度  
そだてる助成

p.38 2017年度  
発信・提言助成

p.40 2017年度  
しらべる助成

p.42 地域の  
変化解剖録

p.46 2016・2017年度  
助成を振り返って

# 国内助成プログラムの概要



## < 各助成のねらいと相関性 >

### しらべる助成

地域や人々を取り巻く環境や生じている課題を明らかにし、事業戦略の立案まで取り組む「調査活動」に助成

### そだてる助成

多様な主体が参加して、地域の課題解決の仕組みづくりや未来の担い手育成に取り組む「事業」に助成

### 発信・提言助成

過去のプロジェクトの成果に基づき、「政策提言」や「社会提案」などを目的とする取り組みに助成  
(※過去の助成対象限定)

私たちの暮らしの場である地域社会は、地方/大都市圏を問わず、コミュニティの持続可能性の危機への対応が急務となっています。この背景には、高齢化や人口変動に伴う問題が存在しており、将来的には世代間および地域間の不均衡がさらに大きくなるのが現実味を帯びています。他方で、国籍や文化、価値観、生活習慣など多様な背景を持つ人々が安心、安全に暮らせる環境を実現していくこともコミュニティの持続可能性において一段と重要になっています。

このような問題意識に基づき、国内助成プログラムでは、2014年度から「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ—地域に開かれた仕事づくりを通じて—」をテーマとし、多様な主体が参加する仕事づくりやその担い手の育成をめざす事業に対する助成(=そだてる助成)を行ってきました。

さらに、助成を通じて、事業の実施には課題の構造を捉えたりステークホルダーとの関係性を構築したりするプロセスが重要であるとの考えを改めて強く持ち、2016年度には事業の戦略立案までを含む調査活動に対する助成(=しらべる助成)を開始しました。そして、2017年度からは非公募型で実施している政策提言や社会提案などを目的とする取り組みへの助成(=発信・提言助成)を含めた3つのカテゴリでの助成を通じて、持続可能なコミュニティの実現に向けた一連の取り組みを応援しています。

## 応募をご検討の方へ

2019年度は、地域を支える多様な主体の参加や長期的な担い手育成の視点を継承しつつ、地域の課題を解決していく具体の仕組みを創出する視点を重視し、テーマを「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ—地域に開かれた活力ある課題解決の仕組みを通じて—」に見直しました。

また、「地域活性化」および「人材育成」の重要性を踏まえ、「持続可能な事業の創出や展開」および「地域の将来を担う人材を育てる教育の在り方の提案や試行」を重点領域としています。「持続可能なコミュニティの創造」に向けて、それぞれの地域の現状を踏まえ、資源を活用した多様で柔軟な取り組みを期待しています。



# 2015・2016年度 そだてる助成



## まちづくり p.06~



宮城県

地域循環型移住プロジェクト  
「多様な人材が継承するまちづくりへの挑戦」



大阪府

地域コミュニティでの新たな働き方・生き方を大阪府箕面市から発信する飽きない高い事業化プロジェクト



茨城県

定住化支援と災害からの復興  
-保育、仕事、移住の改善と異文化交流の促進



高知県・愛媛県

いなかビジネス2番手!発掘&育成プロジェクト  
-いなかの人材発掘・育成のビジネスモデルづくり



秋田県

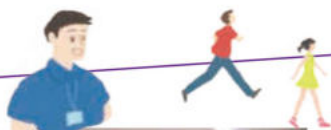
「サンソンプロジェクト」  
-次世代につながる里山のなりわいづくり



東京都

小さな村の発酵文化を未来へ受け継ぐ  
-檜原村の土蔵を発酵蔵として再生し、発酵文化を若い担い手が継承する仕組みをつくるプロジェクト

## 教育 p.18~



島根県

教育型下宿での観光業再生  
-学びと探求による地域人材育成を目指して



大阪府

地域に高校生のつながりを  
-定時制高校中退予防プロジェクト



東京都

LGBTの子どもも育つ東京  
-学校で支援/理解普及を担う教職員養成

## 環境 p.24~



福岡県

ローカルフードサイクリング  
-生ごみを野菜にかえるサービスの構築



## 福祉 p.26~



兵庫県

ソーシャル・アントレプレナーとなることを発心した若者たちの起業支援による難病復興モデル  
-瀬戸内海の島が社会企業家たちを育む



東京都

農福連携による互助のあるコミュニティの実現  
-都市郊外における農福連携ファームの開設



千葉県

地域の通いの場の担い手育成  
-松戸の介護予防を促進するコミュニティの力



愛知県

若者と動物の共生事業  
-困難を抱える若者と目指す「殺処分ゼロ」



青森県

地方都市において、性に関わる問題を抱えた層の孤立を防ぎ、適切な情報及び支援体制を渡すことを可能にするコミュニティ創設の実践



宮城県

高齢者の健康見守りサービス  
-潜在介護士が離れて暮らす親子を支える

# 地域循環型移住プロジェクト 「多様な人材が継承するまちづくりへの挑戦」

プロジェクト代表者  
一般社団法人イシノマキ・ファーム  
**高橋 由佳**

プロジェクトメンバー  
**地域住民ボランティア**



誕生した担い手  
**就農者・移住者**

## 活動内容（宮城県/助成金額900万円）

- ・古民家プラットフォーム運営（休耕地・空き家活用）
- ・移住就労支援（ファームステイ・農業インターン）
- ・ホップ6次化商品開発
- ・イベント・スタディーツアー開催（関係人口）

## 主な課題

- ・人口減少、休耕地、空き家、高齢化

宮城県石巻市北上町は、震災後の影響でまちを離れる人や高齢化による人口減少が起きている。さらに空き家問題も徐々に始まっていた。そこで都市部に暮らす人に向けて、ホップ栽培から始めるビールの商品化・販売をきっかけに関係人口を増やした。さらに若者が自立のために移住を決意できるように、ファームステイ等を通して地域住民とのコミュニティをつくり、共生型まちづくりの基盤づくりを目指した。

## 協力者

合同会社巻組 / 農業生産法人株式会社田むし / NPO法人クロスフィールズ / 社会福祉法人豊心会 / 石巻市北上総合支所 / 公益財団法人さなぶり / 一般社団法人こはく



**1** 地域住民ボランティアがプロジェクトメンバーに!

ボランティアで手伝ってくださっていた地域住民の方が、当法人の仕事希望され、市役所を定年退職後に就職して職員として活動して下さることに! 地域の方が見守ってくれ、活動に共感して下さっていると実感できた。

**2** 石巻市農業担い手センターが誕生! 移住者・就農者が2名決まった!

宮城県石巻市から、地域交流型担い手の育成事業の実績を評価され、委託事業が決定した。新規就農者として移住者も生まれ、地域住民から大変喜んで頂けた。さらに本人も北上町へ来て良かったと話してくれた。また、こころのケアを必要としていた被災者住民の方が、農業を通して地域住民に支えられ社会復帰を目指している。

**トヨタ財団より**  
担い手育成事業が石巻市からの委託事業へ発展したこと、新規での移住者が生まれたことは地道な活動が信頼・評価された成果ではないでしょうか。石巻で新規就農者が増えていく事に今後期待しています。

石巻市より事業委託決定!  
共生型まちづくりの  
基盤ができた!

- 主な結果
- ・ Village AOYA宿泊者数(2017-19)\_97人
  - ・ 就農体験プログラム実施件数\_16回
  - ・ 就農体験プログラム参加者数\_121人
  - ・ 北上町空き家活用\_2軒
  - ・ 就農者・移住者\_2人

今後の計画

石巻市農業担い手センターをさらに発展させていき、石巻の農業が多様な人材を担う地域となるようネットワークやプラットフォームの構築を行う(農家ジャパン)。また、農業を中心としたインクルーシブスクールの前身として「農村留学」プログラムを夏・秋に開講を予定している。

# 地域コミュニティでの新たな働き方・生き方を 大阪府箕面市から発信する 飽きない商い事業化プロジェクト

プロジェクト代表者  
若者と地域住民協働の働き方  
創造プロジェクトチーム  
**東方 耀平**

プロジェクトメンバー  
**地域住民**

誕生した担い手  
**なんかし隊**

## 活動内容（大阪府/助成金額549万円）

- ・何でも屋起業（生活弱者のサポート）
- ・若者たちの居場所づくり（地域コミュニティ）
- ・府外留学プログラム（若者のスキルアップ）
- ・保育ニーズ調査

## 主な課題

- ・不登校、引きこもり、非行、高齢化、孤食

大阪府箕面市菅野周辺地域には、大阪万博を機にベッドタウンとしての開発が進み、2020年に新駅に延伸に合わせてさらに新規流入層が予想されている。住民が増える一方で、社会参加が難しく生きづらさを抱えた若者たちが地域で顕在化。また市内の高齢者世帯は24.9%と高い割合にある。そこで若者が居場所や役割を自ら生み出し、地域に必要な存在として担い手になることを目指してプロジェクトを開始した。

## 協力者

生活支援経験なんかし隊メンバー / ボランティアグループがっちゃん / イチ会同会社 / NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝 / 一般社団法人コアプラス / 箕面市自治会 / 北芝まちづくり協議会 / NPO法人コミュニティワーク実践センター / NPO法人地域生活支援ネットワークサロン / 一般社団法人オシテルヤ / 起業組合あうん



仕事依頼件数が  
毎月5件から  
毎月10件以上に！

参加や仕事に依頼が少ない月も数回あったものの、毎月活動し地域内の認知を高めたことで、何でもやったるDAYに仕事の依頼をしてくれた人が、自分の知り合いや友人に口コミですすめられたり、活動中に通りすがりの一元客から依頼をもらうようになった。



孤食解消に向けた活動が広がった！

地域で世代をミックスしたご飯の場が月2回以上開催されるようになった。何でもやったるDAY後の打ち上げを兼ねたご飯会が恒例になったが、そこに参加する人達を中心に、イベントの無い日に地域の集会所などを活用し、多世代と一緒に食事をする取り組みが増えている。



防災や孤立予防などの地域活動に情報が活かされるようになった！

何でもやったるDAYの仕事依頼や被災後の近隣訪問などから、普段公的なサポートを受けていないが、生活実態は困窮している家庭の情報が蓄積され、結果として介護サービスなど公的なサービスに繋がったり、制度につながらなくても地域の見守りの中で情報が活かされた。

若者が地域に必要な存在として活躍！  
新法人設立へ！

## 主な結果

- ・何でもやったるDAY\_全28回/若者平均8人参加
- ・食事会参加者\_約40人/月2
- ・社会ウルルン滞在記プログラム 朝路生活支援事業「せっせ」研修
- ・社会ウルルン滞在記プログラム「東京あうん」研修
- ・一般社団法人YDPを設立

## 今後の計画

助成期間終盤に一般社団法人として団体を立ち上げ、何でも屋（引越し、遺品整理、家電リサイクル、生活支援など）の取り組みをベースに事業収益やエリアを広げていく。実施体制についてはNPO法人との兼務メンバーが事務局を担いながら、担い手としては市内の隣保館、生活困窮者自立支援事業と連携しながら多様な背景をもつ若者や地域住民の巻き込みを目指す。



## トヨタ財団より

法人化まで実現されたこと着実な取り組みの成果だと感じています。何より2年半で若者が大人になりまた若い子につなぐという循環が生まれていくことうれしく思います。「なんでもやったる」と「自治」のバランスをとりながら、今後どう展開していくか楽しみにしています。

# 定住化支援と災害からの復興 保育、仕事、移住の改善と異文化交流の促進



## 1 多文化保育所を開設し バイリンガル特性を 活かせる職場ができた!

通訳がいる多文化保育所を常総市内で初めて開設し、バイリンガル保育スタッフを5人採用することができた。1年間で15人以上の園児に通園してもらえ、バイリンガル特性を活かせる職場づくりと待機児童課題解消に貢献することができた。

プロジェクト代表者  
認定NPO法人茨城  
NPOセンター・コモンズ  
**横田 能洋**

プロジェクトメンバー  
**保育スタッフ**

誕生した担い手  
**ピアサポーター**

### 活動内容（茨城県/助成金額600万円）

- ・未就学児日本語指導
- ・保護者向け支援（情報提供・サロン開設）
- ・中高生向けキャリアセミナー
- ・外国ルーツの若者のキャリア・職場づくり
- ・保育ニーズ調査

### 主な課題

- ・子育て、教育、多文化共生

茨城県常総市には、外国ルーツの子どもたちが多く暮らしているが義務教育では補いきれていない課題があった。市と連携した調査では、市内には330人の外国籍未就学児が居て、その半分が在宅していることが判明した。そこで就学前の子への日本語指導と保護者向け支援も兼ねた多文化保育を事業化し、家族全体をサポートできる体制づくりを行なった。合わせて外国ルーツの中高生に向けた若者のキャリア支援のための体制づくりも進めた。

### 協力者

一般社団法人グローバルセンター・コモンズ / 常総市市民協働課・市民課・子ども課 / 常総市教育委員会 / 茨城国際課 / ブラジル学校 / 多文化リソース山梨



## 2 ピアサポーター誕生! 多言語生活ガイドの完成

プロジェクトでの働きかけにより、国の補助を受け常総市が予算を確保できた。そこでピアサポーター養成講座を開催し、正しい知識を持ったピアサポーターが誕生。当事者の視点に基づく生活ガイドを6言語制作できた。



### トヨタ財団より

ニーズ調査等を通じて在留外国人の待機児童の存在が可視化され、多文化保育園の開所や多言語生活ガイドの作成などを通じて、多文化共生に向けて常総市も巻き込んだ取り組みの展開が実現したことが大きな成果と捉えています。安心して暮らせる地域の実現とその波及効果に期待しています。

## 潜在的な待機児童の存在が 調査で明らかになり 新たなサービスを開始できた!

### 主な結果

- ・多文化保育所「はじめてのいっば保育園」開所
- ・バイリンガル保育スタッフ採用\_5人
- ・外国人中高生対象キャリアセミナー参加者\_49人
- ・茨城県小中学校アドバイザー派遣実施決定(2019年)
- ・茨城県初夜間中学校開設決定(2020年)

### 今後の計画

2020年度から0-2歳児については常総市の小規模保育の認可が受けられる見込み。3-5歳は認可外として継続するが、保育無償化の対象になるので利用者増が見込まれる。ピアサポーター講座は、修了した人が就学や生活の支援の担い手になり、市の各課の外国籍住民対応サービスの改善策を考えるなど実践を深め、新たなサポーターを増やしていく。

## 3 学校・行政と連携し 家族全体を長期間サポートする 体制ができた!

「はじめてのいっば保育園」に入園した今春小学校に入学する子が1人いた。父に障害があり母が長時間が働いている家庭で、言葉の取得だけに止まらないサポートが必要だった。そこで学校・行政と連携し、生活リズム・体力づくり・食事の習慣・40分の登校練習など、あらゆる面で準備し、無事1年生になることができた。入学後も当会の学童でサポートし、父親の自立支援も他団体と連携して取り組んでいく。

# いなかビジネス2番手! 発掘&育成プロジェクト いなかの人財発掘・育成のビジネスモデルづくり



プロジェクト代表者  
いなかビジネス2番手!  
発掘&育成プロジェクトチーム  
**佐々倉 玲奈**



プロジェクトメンバー  
**地域事業者**



誕生した担い手  
**いなかビジネス2番手**

## 活動内容 (高知県・愛媛県/助成金額460万円)

- ・集客力アップのための取り組み (web、イベントなど)
- ・社会実験としての人材派遣
- ・研修プログラムの開発とスタッフ研修
- ・派遣業許可更新のための資金調達

## 主な課題

- ・地域産業の衰退

高知県の四万十川中流域は、お茶・栗・原木しいたけなどといった地域産品を全国に生み出している中山間地域であったが、産業を担ってきた地域産業者(リーダー)の高齢化などに伴い、「募集・採用できない」「育てられない」という課題から慢性的な人材不足が起こっていた。そこで、リーダーの思いをくみ取り、人材を募集・発掘し、育成していただけるようなマネジメント能力を持つ2番手を育てた。

## 協力者

(一社)いなかパイプ / (株)四万十ドラマ / カヌー館 / (株)西土佐ふるさと市 / 相島畑 / ぼうひ(会) / (株)サカタ / 司牡丹商店(株) / (株)森の三角ばうし / 青木将幸ファンリテーター事務所 / ひとことワークス / フェンスワークス / OLDe / サコダデザイン(株) / よここい労働事務所



## 1 いなか人材派遣会社ができる!

派遣業の一般的なビジネスモデルと、寄付や出資という非営利セクターのモデルの組み合わせにより成り立つ、全国にない事例として継続している。



## 2 地域事業者が求人について相談できる先ができた!

慢性的な人材不足に悩む地域事業者が、求人募集の体制を整えることで継続的に担い手を発掘&育成できる仕組みを作るまでをサポートするサービスが生まれた。

3

## 3 独立する自信がない人も自由に働ける可能性ができた!

独立して働く覚悟が決まっていない人が、自分ができることを活かしながらストレスなく働くことができる自由な「働き方」「生き方」の選択肢を増やすことができた。



行き場を失っていた人々が  
地域事業者を支える  
2番手となった!

## 主な結果

- ・webアクセス(2018)\_平均23638人/月
- ・インターン参加者(2016~18)\_76人
- ・労働者派遣先/派遣者数\_10社/20人
- ・研修プログラムの作成、継続実施
- ・事業継続のための資金調達\_1500万円

## 今後の計画

社会実験の結果を踏まえ、新法人を設立し派遣業・紹介業の許可を取得し、事業継続ははじめている。今後は、さらなる事業展開を目指して「いなか」の仕事を発掘し、つなぎ合わせる「働き方開発」を行いながら、「いなかで生きたい」という新しい生き方・働き方を模索する人々をマッチングしていく。

## トヨタ財団より

日本ではじめての地域の人材派遣の仕組みが確立したことは大きな成果ですね。その仕組みを支える資金を寄付によって集めたことは大きいと思います。今後地域内外の人の関わりが地域にどのような変化をもたらすか楽しみにしています。

# 「サンソンプロジェクト」 次世代につなぐ里山のなりわいづくり

- 
 プロジェクト代表者  
山内南共助連合会  
**石沢 達雄**
- 
 プロジェクトメンバー  
**地域住民**
- 
 誕生した担い手  
**若手里山のなりわい実践者**

## 活動内容（秋田県/助成金額600万円）

- ・山耕放棄地を活用した山菜ビジネス（地域住民の生きがい創出）
- ・未来の担い手育成事業（小中高生との山菜植え付け体験他）

## 主な課題

- ・過疎化、高齢化、耕作放棄地

秋田県横手市山内南地区には、耕作放棄地の増加や、若年人口の流出により集落が消滅してしまうのではないかと危惧感があつた。そこで耕作放棄地を活用した「山菜ビジネス」をつくり、合わせて小中高生との山菜植え付け体験なども実施することで、次世代につなぐ里山のなりわいをつくり、ささえ合いによる持続可能な地域づくりを目指した。

## 協力者

三叉共助組合 / 南郷共助組合 / いかた共助組合 / 生きがい食材納入組合 / アニバトル / 秋田県南NPOセンター / 増田高等学校 / 横手高等学校定時制 / 横手支援学校



## 高校生2人が 公務員として採用された！

今まで地域との関わりが希薄であった高校生たちが、山菜の植え付けや除排雪体験交流を行なったことを通して、地域で働くイメージに自信が持てた。さらにプロジェクトでの経験が就職の面接でも評価され、公務員として採用に至った生徒が2人生まれた。



## 2

## 持続可能な地域づくりのための 準備が整い、NPO法人設立へ！

耕作放棄地を活用した「山菜ビジネス」を核とする次世代につなぐ里山のなりわいづくり、ささえ合いによる持続可能な地域づくりを行なうために、横手市山内三叉区で検討を重ねた結果、集落周辺耕作放棄地の森林化を抑制し、山村集落の持続可能性を高めるためのNPO法人を設立することになった。

## トヨタ財団より

地域住民と共に活動が進められ、山間地域での生きがいや仕事づくりにより、地域での繋がりや共助活動が出来たことが大きな成果ではないでしょうか。今後の持続的なコミュニティを目指す活動に期待をしています。

次世代につなぐ  
里山のなりわいを  
地域住民みんなで考え  
実践できた！

## 主な結果

- ・山菜植え付け体験会参加者\_96人
- ・高齢者世帯の共助支援実施回数\_140回
- ・高齢者世帯の共助支援参加者\_683人

## 今後の計画

増加が進む耕作放棄地の更なる活用拡大を進めるとともに、収穫・販売・維持管理といった循環を集落ぐるみで経営していく。2019年3月に「これからの三叉区を考える住民集会」を開催し、集落環境の保全と資源の活用を推進していく母体となる新たな「全世代加入型地域経営団体」の設立に向けて準備を行う。



# 小さな村の発酵文化を未来へ受け継ぐ 檜原村の土蔵を発酵蔵として再生し、発酵文化を 若い担い手が継承する仕組みをつくるプロジェクト

プロジェクト代表者  
ひのほら村発酵蔵プロジェクトチーム  
**松村 直美**

プロジェクトメンバー  
**発酵文化保持者**

再生した担い手  
**若手伝統継承者**

## 活動内容（東京都/助成金額460万円）

- ・味噌づくりワークショップ
- ・商品開発
- ・伝統継承広報物の製作

## 主な課題

- ・過疎化、伝統の衰退、教育

東京都檜原村には、鑿野大豆をはじめとする在来作物の栽培や食品加工などの発酵文化があり、収穫シーズンには観光客など人の出入りも多いが、通年に渡っての発信・販売する商品や拠点がなかった。そこで土蔵を発酵蔵として再生し、味噌づくりワークショップや商品開発、合わせて地域に根付いた冊子を製作し、集落の伝統や暮らしの知恵を残し未来の担い手へ受け継ぐ仕組みづくりを目指した。

## 協力者

東京ひのほら地域協議会 / WAKUWORKS 一級建築士事務所 / サンシティ国布  
ロイヤルケア / 株式会社やまもり / 株式会社 東京チェンソーズ / 檜原村イタリアン  
レストランデルビーノ / 藤又左衛門工業所 / 一般社団法人瀬久保屋 / カフェスロー /  
目黒区学校給食 / ホテルオークラ中華料理店



集落の伝統や暮らしの知恵を  
未来の担い手へ受け継ぐ  
仕組みをつくれた!

## 主な結果

- ・発酵ワークショップ参加者数\_50人
- ・地域冊子「はけとせど」発行\_1500部

## 今後の計画

地域冊子「はけとせど」を地域内で企画・製作を行っていく。創刊号は、助成を受けてフリーペーパーとして発行し、多くの方たちに閲覧していただけた。2号目からは、ボリューム・内容ともにより整ったものを製作し、300~500円にて販売を行っていく計画である。また、引き続き実際に集落へ足を運んでくださるイベントやワークショップも企画していく。

## ワークショップや企画が増加した!

このプロジェクトのワークショップだけではなく、地域の方が、自ら村内に人を呼びかけづくりや、ワークショップなどを企画するようになった。またワークショップ開催時でも遊びに来る人が増え、訪問者の増加に繋がった。

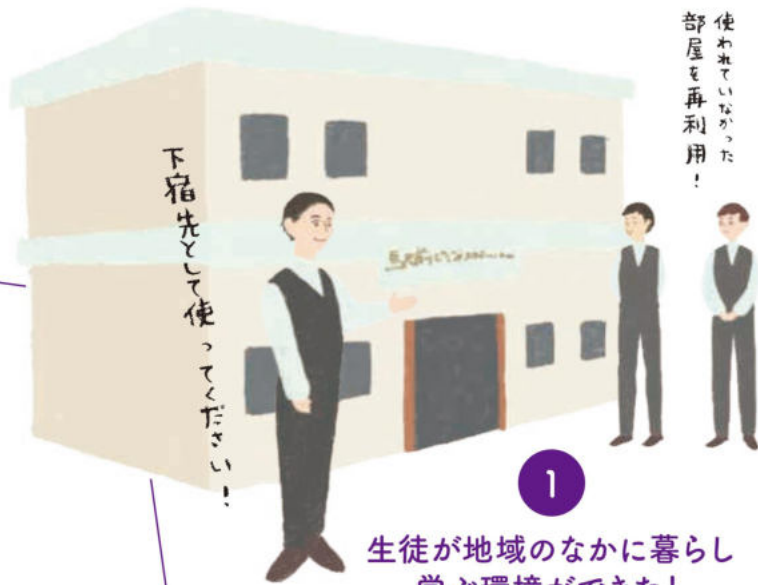
## トヨタ財団より

地域の過去と今を記録する冊子が発行されたのは大きな成果ですね。今後冊子が「記録」から次につながるアクションのきっかけになることを期待しています。

## 移住・定住者の増加に 貢献できた!

畑で汗を流したり、綺麗な空気を吸ったり、沢の水を飲んだり、様々な生き物や植物に出会える環境から“おいしさ”に繋がるワークショップを提供できた。その後ワークショップに参加してくださった家族が村内に移住し、定住者の増加に貢献できた。

# 教育型下宿での観光業再生 学びと探求による地域人材育成を目指して



1

## 生徒が地域のなかに暮らし 学ぶ環境ができた!

プロジェクト開始時からお世話になっていた下宿先から移転し、「ビジネスホテル津和野」の一部を新たな下宿先として使わせていただけることとなった。これをきっかけに運営体制を見直し、「教育型」としての時間を確保していくことに繋がった。



# 未来を担う下宿生による 地域活動の成果が 拳がりはじめた!

### 主な結果

- ・観光宿の空き部屋活用数\_5部屋
- ・下宿生徒数\_8名、入居希望者数\_20人
- ・「つわのみらいデザインコンテスト」優秀賞
- ・下宿在籍経験者が東京大学の推薦入試に合格

### 今後の計画

認知度が上がり、入居希望者は毎年多いものの部屋数が少なく、さらに公費で運営されている他の寮に比べ値段を上げざるおえず、入居できないケースがある。津和野町との連携や運営体制の見直しによって、入居を希望する家庭にとって負担の少ないモデルを目指したい。

プロジェクト代表者  
NPO法人bootopia  
瀬下 翔太

受益者  
下宿先の提供者

誕生した担い手  
下宿生

### 活動内容(島根県/助成金額700万円)

- ・教育型下宿(空き部屋活用、学習支援)

### 主な課題

- ・人口減少、少子高齢化、空き家、空き部屋

人口減少が進む島根県鹿足郡津和野町では、町内唯一の高校である島根県立津和野高校の入学希望者を全国から募り成果を出している。他方で、人口減少に伴い町内に空き家・空き部屋が多数存在しており、その維持・管理が問題となっている。そこで、津和野高校の生徒に対して観光宿の空き部屋を提供することで宿の稼働率を上げるとともに、高校生の学習支援を行う「教育型下宿」を行った。

### 協力者

上山 信一 慶應義塾大学総合政策学部教授 / 亀井 善太郎 東京財団政策プロデューサー / 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科特任教授 / 市川 剛 関西学院大学産業研究所准教授 / 井底 崇 慶應義塾大学総合政策学部准教授 / 太田 知也 慶應義塾大学政策・メディア修士課程 / 野村 知宏 東京工業大学博士課程 / 大江 健太 津和野町企画人養成塾 / 寺戸 政人 島根産業振興財団理事



## 下宿出身の卒業生を送り出すことができました!

2

無事に卒業生を送り出すことができ、東京大学合格者も出た。その後二度目の生徒募集を行い、借りている5部屋すべてを埋めることが出来た。活動を山陰中央テレビに取材してもらったことで地域内での認知度も高まっている。



### トヨタ財団より

初めての卒業生を送り出すまでのプロセスにおいて、下宿した高校生による地域活動が評価され、地域との関係性が深まったことが大きな成果と捉えています。ステークホルダーとの一層の対話を通じて、地域に根付き、持続的な取り組みとなっていくことを期待しています。

# 地域に高校生のつながりを 定時制高校中退予防プロジェクト

プロジェクト代表者  
特定非営利活動法人DXP  
**今井 紀明**

受益者  
**高校生**

誕生した担い手  
対話ボランティア「コンポーザー」  
インターン受け入れ地域企業

## 活動内容（大阪府/助成金額600万円）

- ・単位認定された独自授業実施（高校生へのアウトリーチ）
- ・社会関係資本の構築（学内居場所づくり）
- ・地元企業インターン、学外活動体験（成功体験の蓄積）

## 主な課題

- ・貧困、進路決定、若者の就労

大阪府の定時制高校に通う高校生には、経済的困難や不登校経験など様々な事情を抱えた高校生が集まっており、1年次中退率は21%（全日制の14倍）にもなる（文部科学省「平成22年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より）。そこで、高校生たちが地域をはじめとする様々な大人とつながりを構築し、さらに学校の内外で「居場所」をつくることで、不本意な中退及び進路未決定状態で卒業を予防することを目指した。

## 協力者

泉州おむすびオトメゴコロ / はんハウスみるく / 廣笑屋 天国 / デイリーヤマザキ  
和泉一楽院商店 / 自家製酵母パン kotubu / パティスリー アン・スリール



海外に  
ちよこっつと  
興味あまね

無料で行ける  
ツアーあまね  
参加してみよう



進路には  
いろんな  
選択肢があまよ

インターンに  
まてあまよ

1

## 関係者と協働できる関係性を 丁寧に構築することができた！

生徒に関するリスク管理の観点から、公的機関である学校は外部との連携に慎重に取り組む必要がある。この2年間で学校のリスク管理の視点を踏まえながら連携実績を積んだことにより、今後の事業につながる協働体制を関係者と構築することができた。



みんなが居場所づくり

福祉の専門家として  
サポートします！



チャレンジプログラムに  
参加してみよう！

## 2 生徒7人が 次の機会へチャレンジできた！

いごちかふえを通して7人（2018年度）が、ゲーム会社への職場見学、プログラミングキャンプ参加、ドイツのアートプロジェクトへの参加や、いごちかふえへの食事提供企業でインターンにチャレンジできた。生徒本人が好きなゲームを通じて職場見学に参加し、知見が広がったと話す生徒もいた。



3

## 卒業生が「卒業後の進路」を 相談しに来るようになった！

卒業した生徒たちは、支援が必要な状況に陥っても支援機関とつながりにくい（所在地やその役割を把握していたとしても）傾向がある。その中で、学校という慣れ親しんだ場であれば訪れやすく、在学中に築いた運営スタッフとの関係性を基に気軽に相談ができていた。本企画自体がインフォーマルな地域資源としての機能を果たせるようになった。

## トヨタ財団より

縦割りをこえて多様な当事者がつながれるコミュニティファームという場が生まれたこと大きな成果だと思います。今後実践の成果を可視化する試みもしていきたいとのこと、可視化することで広がっていくことを期待しています。

生徒に対し  
様々なアプローチができる  
環境を整えた！

## 主な結果

- ・居場所事業利用実績  
▼2017年度生徒参加数\_1348人  
▼2018年度生徒参加数\_1963人  
ゲストコンポーザー参加数\_12人
- ・人とのつながりをつくるプログラム「クレッシェンド」  
生徒参加数\_136人  
対話ボランティア参加数\_37人
- ・就職、進路支援「ライブラボ」導入（2018年10月）

## 今後の計画

大阪府教育庁による「課題を抱える生徒フォローアップ事業」の委託予算と弊団体マンスリーサポーターの方による寄付により、2019年度以降も継続して実施することが決定している。クレッシェンド、居場所事業、就労支援の3つの事業を活用した3年スパンの戦略を組み、生徒の進路決定に関わる情報提供及び機会提供を実施することで具体的な協議を進めている。また、2019年度は4校で「いごちかふえ」を実現できることになった。

# LGBTの子どもも育つ東京 学校で支援/理解普及を担う教職員養成

LGBT・多様な性の教育キット  
「Ally Teacher's Tool Kit」を  
無償提供!

多様な性  
について  
学びたい先生...



プロジェクト代表者  
認定特定非営利活動法人ReBit  
薬師 実芳

プロジェクトメンバー  
講師

誕生した担い手  
アライ先生

活動内容(東京都/助成金額626万円)

- ・多様な性の授業を体系化(一部自団体費)
- ・「アライ先生」育成のための研修実施
- ・「アライ先生」のネットワーク構築

主な課題

- ・LGBT、多様な性の理解

LGBT、多様な性についての教育不足は、いじめなどの深刻な事態を招いている。そこで、小中学校数・在学者数が日本一である東京都の教育現場において、LGBTの子どもに寄り添い多様な性について理解普及をできる教員、アライ先生®を育成し、普及/支援の基盤を整え、LGBTの子どももありのままで大人になれる地域をつくることを目指した。

※「理解者・同盟」を指す英単語「Alliance(アライアンス)」から来ている言葉でLGBTのことを理解・応援している人のことをいいます。

協力者

認定特定非営利活動法人ReBit / 金井美子 早稲田大学教育学部教授 / 小中学校教員 / 映像制作会社 他

教員向け研修!



## 1 アライ先生の ネットワークを構築

メルマガでLGBTなどに関するニュースやイベント情報を発信した他、本プロジェクトが新聞で19回、オンラインニュースで13回報じられ広く周知された。



## 2 LGBT・多様な性が 教育現場に浸透し始めた!

2020年4月から使用される小学校保健教科書2冊に初めて多様な性についての記載がされることとなった。また、2019年4月から使用される中学校道徳教科書では8社中4社に初めてLGBTが記載されることとなった。



多様な性について学びたい先生...

相識できる人が  
学校にいますんだ

認識合うことが  
大事なんだ!

## 3 子どもたちが多様な性について学ぶ機会の増加

育成された各学校のアライ先生が、教材(ATTK)を用い多様な性についての授業を実施。また授業後の生徒アンケートによって授業の効果測定を行った。



492人の  
アライ先生が誕生!

※メールマガジン登録者985人中  
50%が教員と推計

いろいろな個性があって当然!お互いを尊重し合いましょ!

トヨタ財団より

学校で多様な性について理解普及をできる教員が多く育成されたこと、また情報提供の機会が多く作られたことが大きな成果だと思いました。多様な子どもたちが安心して生きられる社会になるための活動に今後も期待しています。

アライ先生を中心に  
多様な性を認め合う  
基盤ができた!

主な結果

- ・教員研修参加数\_210人
- ・生徒向け授業\_小学校11校、中学校57校

今後の計画

埼玉県上尾市、朝霞市を始め、市区町村内の全学校に「ATTK」を配布を無料公開並びに、教員への無料配布を継続しながら、自治体とも連携をし、より広く配布を行う。また、小学校高学年版「ATTK」の調査分析および調査報告書作成をし、ファンディングを行う予定。

# ローカルフードサイクリング 生ごみを野菜にかえるサービスの構築

-  プロジェクト代表者  
特定非営利活動法人循環生活研究所  
平 由子
-  プロジェクトメンバー  
住民ボランティア
-  誕生した担い手  
コミュニティコンポスト参加者

**活動内容** (福岡県/助成金額761万円)

- ・ダンボールコンポスト(3ヶ月タイプ)普及(資源循環)
- ・ミニサイズの開発とシステム普及
- ・地域のコミュニティガーデン・マーケット連携
- ・認証制度としての確立

**主な課題**

- ・環境、教育、高齢化

現在、私たちの暮らしは環境に対して資源を使い果たす一方通行だ。課題は人々の中で自分ごとになり切っていないため、地域に暮らす全ての人々がヒトゴト層に取まらずに、資源を活用する地域社会を構築する必要がある。そこで本事業では、家庭の台所を起点にしたコンポスト・循環野菜・スクール・食を地域の中で繋げる循環の輪を作り、安全な食につながる仕組みと、採れたての美味しい地域野菜を育む土を次世代に残すことを目指す。

**協力者**  
九州大学芸術工学研究院 / 国連ハビタット / Local knowledge platform / LLC、アジア都市研究所 / 福岡県中小企業経営者協会 / 福岡県 / 福岡市 / アーバンデザインセンター / 吉村デザイン工房



楽しくみんなが循環社会をつくりましょう!



コミュニティコンポスト参加が138世帯に!

1

26.3トンの生ごみを資源化できた!

9.2トンのCO2削減できた!



**トヨタ財団より**  
地域住民の生ごみへの意識や認識が変化したこと、地域内での繋がりによる共助が生まれた事が大きな成果だと思いました。活動では地域住民の主体性が高まり、活動がどのような発展を見せるか今後に期待しています。

生ごみ・野菜・活動に対する価値観が変わった!  
環境や地域に対する意識が向上!行動の変化も!

- 主な結果**
- ・自給自足の実践・技術獲得の講座参加者\_1422人
  - ・LFCスクール\_85回開催
  - ・ガーデンイベント来場者(2018年9月)\_200人
  - ・研究会主催フォーラム参加者(2018年)\_70人
  - ・アンケート・モニタリング調査\_事前62人・事後52人

**今後の計画**

半径2kmでの資源循環であるLocal Food Cycle (LFC)は、持続可能な地域づくりへの手段として注目されてきた。一方で行政の動きは政策や条例に縛られ、今後さらに発信し政策提言も具体化していく必要がある。ボランティアマネジメントや人材、資金に課題を残しているため、ファンドレイジングに力を入れていきたい。

2

生ごみ共助サービスの可能性が生まれている!

住民がボランティアとして活動に参加することで、高齢会員の安否を心配したり、自分の住む街の生ごみを活かそうとする気持ちが育まれたり、子どもの教育に活かそうと行動する動きがある。「生ごみ」をキーワードにして会員間や地域内の顔が繋がり、交流が生まれている。

# ソーシャル・アントレプレナーとなることを 発心した若者たちの起業支援による 離島復興モデル 瀬戸内海の島が社会企業家たちを育む



プロジェクト代表者  
いえしま起業支援チーム  
中西 和也



プロジェクトメンバー  
地域住民



誕生した担い手  
「週末島活」実践者

## 活動内容（兵庫県/助成金額550万円）

- ・事前調査（他地域視察、アンケート調査）
- ・週末島活のプロデュース
- ・いえしまライフ。（島の魅力発信）

## 主な課題

- ・人口流出、少子高齢化

兵庫県姫路市に属する家島諸島は、産業の低迷から人口流出が著しく、少子高齢地域となっていた。そこで、島外に住む人が定期的に島を訪れ、自らの得意をいかして島に貢献する「週末島活」をプロデュースした。また、島内の若者とともにSNSやHPなどで島の暮らしの魅力発信を行う「いえしまライフ。」を実践し、子どもたちの選択肢を増やすことを目指した。

## 協力者

いえしまコンシェルジュ合同会社 / NPO法人いえしま / NPO法人大阪NPOセンター / NPO法人離島経済新聞社



観光以上、移住未満!

週末は島へ!

1

## 移住をすることは 必須条件ではなかった!

姫路駅から1時間というアクセスの良さが強みとなり、都心部に住む人が島で起業するにあたって「移住」は必須ではないことがわかった。



平日は戻ります

聞いてください  
週末島活



新しい魅力ですね



高校卒業したら島を出なくちゃいけないと思ってた!



上手な写真を撮りたい!

教えますよ!

2

## 得意を活かして「週末島活」!

移住はせず、週末だけ島で自分の得意を活かす「週末島活」を、都心部に住む若者が様々な形で実践した。カメラ女子ツアー、料理体験教室、そば打ち体験、島ライブなどの活動が行われ、島の魅力の広まり方が増えた。



いそいそとカフェにいらっしやいませ!

3

## 島の人にも雇用したことで 地域のコミュニティが広がった!

週末島活の1つであるカフェ「スコット」において島の主婦を雇用したことで口コミが広まり、これまでの客層が変化し始めた。島の未来を「自分ごと」として捉えられる人材を島内外に増やしていく第一歩となった。

## トヨタ財団より

プロジェクトのターゲットや手法を模索しながらの2年半でしたが、島内の若者の担い手が出てきたことは何より今後につながる成果ですね。今後どのように島の中に仕組みとして定着させていくかチャレンジに期待しています。

「高校を卒業したら島を出る」というこれまでの当たり前に変化が起き始めた!

## 主な結果

- ・カメラ女子ツアー参加者\_35人
- ・料理体験参加者\_35人
- ・そば打ち体験参加者\_10人
- ・島ライブ参加者\_50人
- ・新プロジェクトメンバー\_7人

## 今後の計画

「週末島活」においては、カフェの運営をしながら実施することで必要な固定経費をまかない、「いえしまライフ」においては、お土産物の販売などで得た事業費を活用し、参加費にて補填する形で継続していく。島の多世代に渡って協力体制を確立していきたい。

# 農福連携による互助のあるコミュニティの実現 都市郊外における農福連携ファームの開設

プロジェクト代表者  
株式会社ナチュラルスタンス  
西東京農地保全協議会  
岩崎 智之

プロジェクト事務局長  
株式会社ユニココ  
西東京農地保全協議会  
若尾 健太郎

プロジェクトメンバー  
地域住民

誕生した担い手  
コミュニティファーム運営者

## 活動内容 (東京都/助成金額515万円)

- ・コミュニティファーム(まちづくり・遊休地活用)
- ・障害者就労支援
- ・ノウマチ研究会(調査・研究)

## 主な課題

- ・障害者就労、少子高齢化、農地の活用

東京都西東京市には、福祉・教育・農業・子育て等のまちづくり課題があり、またその関係者より、農業体験・農園利用要望が多かったが、市民のニーズを満たしきれていなかった。そこで、農地という地域の有効資源を活用し、市民だけではなく、課題の当事者同士をつなぎあわせて、相互扶助の関係を構築し、互いの課題を解決することを目指した。

## 協力者

株式会社ナチュラルスタンス / 株式会社ユニココ / 一般財団法人海外農業開発協会 / 中村農園 / 野坂農園 / 市民協働センターゆのらば / 西東京市公民館 / 西東京市社会福祉協議会 / 社会福祉法人 森の会 / ヤギサワバル / 吉田 行郎 (農林水産省 農林水産政策研究所) / 熊田博義教授(武蔵野大学) / 小泉隆文 助教(東洋大学)



次は何を栽培しようかな？



## 1 やりがい・いきがいの場を創出できた！

食を通じて地域を盛り上げたいと思っていた主婦が、当プロジェクトに関わることで地域との接点ができ、起業を決定した。また、引きこもりがちだった高齢者が地域社会とつながり、行動範囲が増えた。運営メンバーであるシニアや市民が、個々のやりたいこと、できることをコミュニティファームにおいて実現できた。

食を通じて地域を盛り上げたい！



一緒にやりたい！

こんなアイデアはどうだろうか？

共働吧！

畑に入ってもいいよ！

みんなが育ててみんなが収穫！

コミュニティファームを増加！  
市民のニーズをみんなで満たす  
コミュニティができた！

## 主な結果

- ・コミュニティファーム「みんなの畑」オープン
- ・コミュニティファーム増加\_2ヶ所
- ・知的障害者への報酬増加\_1000円→1200円/時
- ・体制強化市民ボランティア増員\_2人→10人、1団体

## 今後の計画

今後も確立した体制で運営しつつ法人化を検討し、賛助会員制度を設け、事業者からの会費を徴収し財源の多様化を図る。コミュニティファームの研究も継続し科学的な根拠で自治体や企業との協力体制を構築することを目指す。その上で他市への展開を図り、他団体とのコラボレーションの中での運営を検討する。



## 2 知的障害者の就労の機会と可能性を拡大できた！

就労支援施設においては、クッキーづくりや資源ごみ回収などを行っているが、障害者のコンディションに左右されるため、収入源の多様化が求められていた。みんなの畑では、健康状態によって参加の可否を決めることができ、わずかながらの収入源の増加や、知的障害者の就労支援の機会をつくらせている。

## トヨタ財団より

縦割りをこえて多様な当事者がつながれるコミュニティファームという場が生まれたことは大きな成果だと思います。今後実践の成果を可視化する試みもしていきたいとのこと、可視化することで広がっていくことを期待しています。

# 地域の通いの場の担い手育成 松戸の介護予防を促進するコミュニティの力

プロジェクト事務局長  
特定非営利活動法人CRファクトリー  
呉 哲煥

誕生した担い手  
コミュニティ創発者

## 活動内容（千葉県/助成金額530万円）

- ・地域の通いの場を創発・活性化(担い手育成)
- ・継続的な仕組み作り(担い手のネットワーク)
- ・ロビーイング(検証、政策)

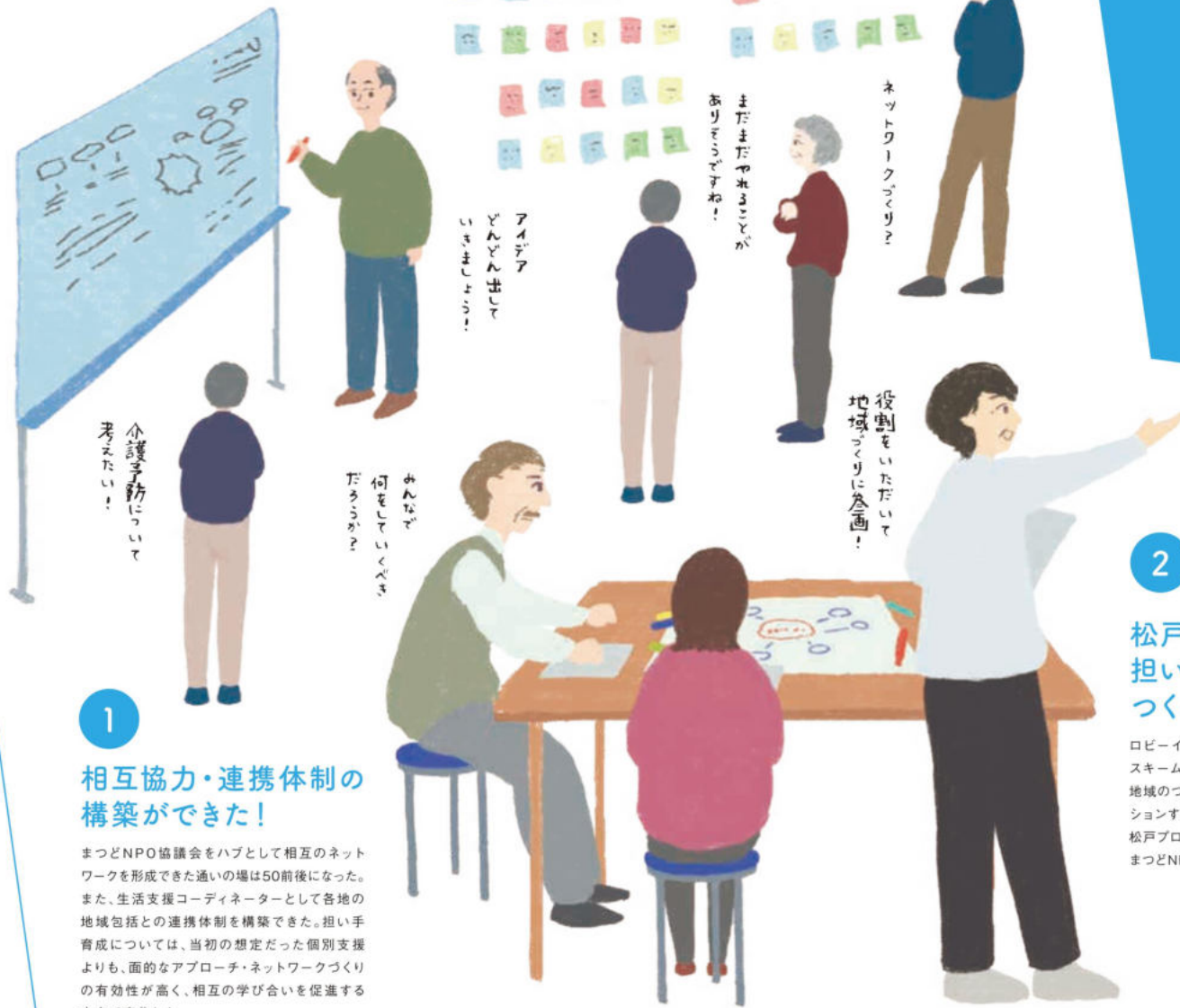
## 主な課題

- ・介護、高齢化

千葉県松戸市では平成37年に高齢化率が27.2%となり、要介護認定率も急増することが予想されている。また専門的なスキルを要する介護従事者の大規模な確保は困難であることから、政策としても「介護予防」に力点を置き始めており、その推進の先駆けとなる「松戸プロジェクト」を発足した。本事業は、松戸プロジェクトと連動しながら、介護予防に直結する地域の通いの場（コミュニティ）を創発・活性化できる担い手を育成し、担い手のネットワークを作ること、またその成果を数値的に検証し政策につなげることを目指した。

## 協力者

まつどNPO協議会 / 千葉大予防医学センター / 国立長寿医療研究センター / コミュニティキャピタル研究会 / 認定NPO法人たすけあいの会ふれあいネットまつど



1

## 相互協力・連携体制の構築ができた!

まつどNPO協議会をハブとして相互のネットワークを形成できた通いの場は50前後になった。また、生活支援コーディネーターとして各地の地域包括との連携体制を構築できた。担い手育成については、当初の想定だった個別支援よりも、面的なアプローチ・ネットワークづくりの有効性が高く、相互の学び合いを促進する方向で変化した。

## トヨタ財団より

地域課題の解決に向けて、個別支援ではなく松戸市や大学等との連携を通じた面的なアプローチの仕組みづくりが出来たことが成果と捉えています。持続的な取り組みとなるよう、今後の自立化に向けた展開にも期待しています。

介護予防に直結する  
地域の通いの場をつくり  
ネットワークができた!

## 主な結果

- ・通いの場運営者交流会・勉強会参加者\_90人
- ・コミュニティマネジメント連続参加\_25団体/32人
- ・アンケート調査\_34団体/537人

## 今後の計画

プロジェクトを通じて、特に高齢者支援の行政担当課からの信頼度が向上し、助成終了後も継続してコミュニティ支援に関わる業務を受注できたので引き続き取り組んでいく。

2

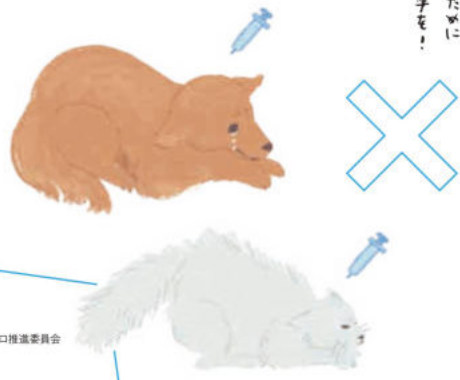
## 松戸市内15地区でつながり担い手の役割をつくることのできた!

ロビーイングの成果として、「地域共生社会づくり」のスキームの一環で、15地区の地域包括と連携しながら地域のつながりづくりのための実行委員会をファシリテーションする役割と、また介護予防を目的に取り組んでいる松戸プロジェクトについても、正式に事業パートナーとしてまつどNPO協議会で任命を受けることができた。



# 若者と動物の共生事業 困難を抱える若者と目指す「殺処分ゼロ」

殺処分  
ゼロのために  
担い手も！



保護犬コーチを目指して  
殺処分ゼロへ！



ニートから  
フリーターへ！

1

## 保護犬コーチ育成で 担い手9名誕生！

25歳ニートの若者がドッグトレーナーを希望しており相談を受けた。その後訪問活動で関係を築きつつ、手始めに老犬(猫)シェルターでのボランティア活動から開始。イベントやフェアの運営も担う事になり、保護犬(猫)の「里親向けペットホテル」のアルバイトスタッフまで成長した。今や団体にとってかけがえのない活動者の1人となった。

野太が  
人に慣れていけるように  
トレーニング...



活動継続のための  
グッズづくり！

イベントの  
販売も行う...



2

## 今後の継続に向けて 学びを活かす収益事業展開！

プロジェクトに参加した若者が自活しなければいけない環境では活動継続できず、結局リタイアせざるを得なかったため、家族と同居など、生活できる環境が整った若者に限定されてしまった。その学びを活かし「寄付システムの構築」「収益事業」を軸に今後展開していく。

寄付システムをつくって  
継続可能に  
事業にしていく...



担い手「保護犬コーチ」誕生！  
トライからの学びを活かし  
収益・寄付システム開発へ！

### 主な結果

- ・ ふれあい訪問活動「みらい」12回
- ・ 保護犬トレーナー養成教育開催数\_15回
- ・ 保護犬トレーナー養成教育参加者数\_141人
- ・ 中日新聞掲載
- ・ 収益活動のため(社)メゾンドファミリー設立

### 今後の計画

ペットホテルやグッズのネット販売、施設入所など高齢化で飼育できなくなった飼い主から有料で引き取る等の収益事業を軸として活動をしながら、ペット信託やアニマルセラピー効果の実証の報告会をおこなったり、イベントや啓発活動を通して「中間就労の場」「ふれあい事業」等の居場所として継続して実施していく。

プロジェクト事務局長  
困難を抱える若者と殺処分ゼロ推進委員会  
守随 智子

誕生した担い手  
保護犬コーチ

### 活動内容(愛知県/助成金額800万円)

- ・ 保護犬介在若者支援プログラム(実施・効果検証)
- ・ 効果検証事業
- ・ イベント・広報啓発
- ・ 保護犬トレーナーの育成事業
- ・ 寄付システム開発事業

### 主な課題

- ・ 若者の就労、動物の殺処分

愛知県には、殺処分対象の犬猫が約600頭存在し、現状「殺処分ゼロ」の推進は主に個人ボランティアにゆだねられ、新しい仕組み作りが急務だと考えている。そこで県内に暮らす社会生活に困難を抱えた子ども・若者(約2000人)の「社会参画」と「殺処分ゼロ」の異なる社会課題を相乗効果によって、新たな支援策で解決するために本事業を実施した。

### 協力者

NPO法人ファミリー / 株式会社アロマフォレスト / NPO法人再サポ愛知 / NPO法人ONESTEP / 名古屋動物愛護センター / 高岳動物クリニック / プーチーズ / 名古屋保護観察所 / 子ども若者総合相談センター / 名古屋北部・南部ステップアップ / 中部アニマルセラピー協会 / 黒田愛知県会議員 / ぐらし応援ネットワーク / はしたにクリニック / 千賀実史(臨床心理士)

### トヨタ財団より

困難を抱える若者と保護犬とのマッチングにより、それぞれに変化が生まれたことが大きな成果だと感じました。今後も新たに立ち上げた団体の活動に期待しています。

# 地方都市において 性に関わる問題を抱えた層の孤立を防ぎ 適切な情報及び支援体制を渡すことを 可能にするコミュニティ創設の実践

プロジェクト代表者  
TEAM AOMORI PRIDE  
岡田 実穂

誕生した担い手  
LGBT当事者

## 活動内容（青森県/助成金額498万円）

- ・LGBT当事者の人材育成
- ・就労、就学支援
- ・相談事業
- ・政策提言

## 主な課題

- ・多様な性の理解

2014年に青森市に拠点を構えて以来LGBTIに関する活動を進めていたが、行政において「LGBTIのような人たちは市内には確認されていない」という答弁や、行政との話し合いの場において「青森は土壌が悪いから仕方ない」という発言があるなど、現実の問題として課題に向き合う姿は見られず、LGBTI当事者も諦めている状態にあった。そこで、性的マイノリティの人たちが孤立しないコミュニティをつくることで、当事者と関わる人たち自身が、個人の問題ではなく社会の問題として思いを共有できる地域づくりを目指した。

## 協力者

レイブクライシス・ネットワーク / 青森セクシャルマイノリティ協会紅色羅平足 / 青森レインボーパレード実行委員会 / NPO法人SANNET青森 / 駅前銀座商店街 / レインボーパレード館本 / LUSH JAPAN / LUSH ELM店 / 各地のアクティビスト / 研究者の皆さん (Ging Christopherさん、Small Lukさん、山下祥さん、畑野とまさんと、東優子さん、日高康晴さん、大藪順子さん、なたりーさん) / ばあばの店うさ美 / bar Amber / 鉄板女酒場どろふね / 日本性教育協会



青森市にもこんなに人がいます。

都会よりも認知されていない

こんなに人がいます。



相談事業により

## 1 相談事業により 共に対応していく仲間が増えた!

相談事業や啓発事業を通して、青森市内のNPOなどとの繋がりが増え、それぞれの課題をシェアする中で、現実的にこのまंचで何をしていくかを定期的に話し合う関係が出来上がった。



こんなに困っている人がいたのですね。

青森市にもこんなに人がいます。

## 2 LGBTIのリアルを政策提言!

青森におけるLGBTIの現状をウェブアンケートにて実施し、200件を超える回答を得ることが出来た。また、当事者に対するインタビュー（10件）も実施、それらの情報を元に資料を作成した。資料作成が遅くなったため、2018年後半から青森市の行政職員や議員が参加（任意参加）の勉強会を開くなど政策提言に繋げている。教育委員会や男女共同参画センターなどへの配布や周知のお願いも実施中。



青森で働きたいんです。

思いを発信していきましょう!

## 3 当事者を担い手に育成!

当事者が当事者と向き合うことの難しさを実感したが、この事業を通じてマイノリティたちがいると認識されるようになり、青森の当事者たちの顔が見えるようになった。いらないと思っていた街の人も変わり、「一人だ」と思っていた当事者たちも大きく変わって行った。

「青森ではどうだろう?」「何が出来る?」という声から当事者から上がり始めた!

## 主な結果

- ・アンケート回答者\_200人
- ・人材育成対象者\_就労支援3人、ボランティア16人
- ・メディア掲載\_新聞4社、雑誌5件、ラジオ1件

## 今後の計画

LGBTIであることをカミングアウトすらしていない人が仲間を作って、恋愛をしたり、共に暮らし始めたり、青森で活動を続けていたり、青森市に確実に変化が起きている。「自分らしく生きる」ことを応援してくれる地域のコミュニティを継続するために、様々な展開を考察中です

# 潜在介護士が離れて暮らす親子を支える 高齢者の健康見守りサービス

体力キープできてます  
いい感じですね！



食事は  
バランス考えてます

運動もしてます！

プロジェクト代表者  
一般社団法人りぷらす  
橋本 大吾

受益者  
要介護前的高齢者

雇入れた担い手  
「シニアの家トレ」スタッフ

活動内容(宮城県/助成金額838万円)

・介護予防

主な課題

・介護離職、介護うつ

石巻市は要介護者の増加が顕著な地域でありその子どもの負担が増えている。そこで介護が必要になる以前から、地域の高齢者の健康状態を見守ったり、介護について親子の相談を受けたりする人材を育成・派遣することで、家族の介護離職、介護うつの予防を図るサービスを実施した。また、要介護前の高齢者とその家族に向けたセミナーなど実施し、予防することの大切さを啓発した。

協力者

ベビスマイル石巻 / 一般社団法人 WIT / 花王株式会社 / おたからのわ\*結



今から準備できる  
ことはなんですか？

親子向け相談会

豊かな老後生活を  
ぶくりましょ！

自分に介護が  
必要になら前に...



仕事と介護の両立セミナー

自分が  
やらなきゃ  
思い詰めては  
ダメですね

介護はプロの仕事です

1

## 親子の間に第三者が介入し 思いを共有することで状況改善！

高齢になった親ができないことが増え、子がつい怒ってしまうことでそれに怯えますますますできなくなってしまう、という悪循環があった。育成したスタッフが第三者として介入し家族間の想いを共有することで、親と子それぞれの暮らしが豊かになることを実際のサービスから確認できた。

2

## 「シニアの家トレ」サービス！

これまでの訪問見守りや、介護に悩む人向けの相談支援、セミナーなどを通して、サービスの価値とポイントが分かった。サービスを「シニアの家トレ」と新たに整理し、オンラインによる介護レクチャーや相談も実施している。介護離職や介護予防に関する知識が不足していた石巻市において活動の認知度が上がり、予防することの大切さが地域に広まりつつある。

トヨタ財団より

試行錯誤されましたが、具体的な事例を通じて「仕事と介護の両立に関する考えが広まった」ことが成果と捉えています。取り組みを通じて地域に仕事と介護の両立が出来る人材が増えていくことを期待しています。

いざという時のために準備！  
課題の認識や  
対策の啓発に繋がった！

主な結果

- ・働く人と家族のための介護セミナー参加者\_10人
- ・仕事と介護の両立セミナー参加者\_10人
- ・初めての介護セミナー参加者\_8人

今後の計画

2019年4月より介護on-lineのホームページを開発し3名体制で運用を開始。口コミやSNSで接点のある人からさらに周知していく。また、NPO法人石巻復興支援ネットワークと協働し、サービスの仮設検証を進めていく。



転倒予防！

大事です！  
未然に防ぎましょう

2017年度

# 発信・提言助成

## 内陸部からの海ごみ発生抑制 地域から始める脱プラスチック社会への挑戦



1

### ペットボトルの デポジット制度に向けた 調査と提言

プロジェクト代表者  
特定非営利活動法人プロジェクト保津川  
原田 禎夫

提言・提案の対象  
関西広域連合・亀岡市

活動内容（京都府/助成金額500万円）

海ごみ問題は、環境保全に対する市民の意識と社会制度の不備を反映した典型的な非点源汚染である。本プロジェクトでは、これまでの取り組みの成果を元に、海洋ごみ問題は海に面した地域だけではなく、内陸部も含めたすべての地域における共通の課題であるとの認識を、地域で共有し、海のない内陸部からの海洋ごみの発生抑制に向けた社会的仕組みを提案・構築するとともに、その成果を国内外に広く発信することを目指す。

提言・提案の目指すところ

- ・ ペットボトルのデポジット制度
- ・ レジ袋の無償配布の禁止
- ・ 野外イベントでのリユース食器の導入支援
- ・ 環境教育、ICT教育におけるごみマップの活用



2

### レジ袋規制に関する 調査と提言



流域面積  
流域人口の多い  
桂川が  
一番ゴミが多い！

ポイ捨てだけの  
問題じゃない！

ハウステンボスで  
聞き取り調査！

具体的な方策を  
検討しよう！

連携支援を  
検討していきましょう！

## 2018年12月13日 「かめおかプラスチックごみ ゼロ宣言」の発表

- 1 マイバッグ持参率 100%の実現
- 2 リバー・フレンドリー・レストランプロジェクト

国内初となるプラスチック製レジ袋の使用禁止を含むレジ袋の使用規制に関する条例制定や、マイバッグ持参率100%を実現する。また、その具現化のために、環境教育の一層の推進や「書芸の芸術祭」などを通じた市民とアーティストとのコラボレーションによるオリジナル・マイバッグの制作・普及に取り組む。

米Surfrider Foundationが進める環境配慮型飲食店認証制度であるOcean Friendly Restaurantsとの提携を通じて、使い捨てプラスチック製品を使用しない市内飲食店を認証し、廃棄物削減を実現する。

- 3 いつでも、どこでも 亀岡の美味しい水 プロジェクト
- 4 プラごみゼロで まちのしごと 応援プロジェクト

保津川のごみの多くを占めるペットボトルの使用量削減にむけて「地域ができること」として、無料の給水機（ウォーターサーバー）を設置する。まずは市内公共施設から設置を進める。また、公共施設設置分については、お湯の供給も可能なものとして、哺乳瓶への給湯も可能とすることで子育て支援にもつなげる。

亀岡市は、石油化学関連産業のウェイトは小さい一方で、林業や紙・パルプ産業や繊維産業が市内経済に占める割合は小さくない。そこで、プラスチックごみゼロ宣言を契機として代替素材に関する「しごと」を地域内に創出し、市内経済の活性化に貢献する。

### 今後の計画

海洋へのプラスチックごみの流出の効果的な抑制のためには、亀岡市だけではなく流域での連携した取り組みが不可欠である。取り組みを通じて明らかになったことは、伝統的な地域組織が機能している上流部では、関係者の属人的な特性を活かしたネットワーク化が有効であり、一方、大都市部である下流部では社会的な制度・仕組みを活用したネットワーク化が有効である、という地域の特性の違いである。だが、異なる特性をもつ地域をつなぐ仕組みは自然発生的に成立するものではなく、たとえば地域の課題解決の取り組みの全国的、あるいは地球規模での価値づけ、あるいは政策的な投資（連携支援）が不可欠である。海から遠く離れた上流域の当地から行政区域を超えた河川環境保全や海洋プラスチック汚染に取り組むネットワークを構築することは、河川環境悪化の抜本的対策立案の観点からも意義深いことであり、今後も引き続き、積極的な取り組みを続けていきたい。

### トヨタ財団より

視察調査や、行政とともに作り上げてきた環境教育プログラムが開発され、「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」が発表されたことは素晴らしい成果だと思いました。引き続き、社会に普及・発信していく取り組みが展開されることを期待しています。

# 2017年度 しらべる助成



各事例の成果報告書は  
こちらから！

## 「声なき声」に支援を届ける 新たなアウトリーチ展開のための調査



特定非営利活動法人OVA  
伊藤 次郎

生活課題を抱えて支援が必要であるにも関わらず、支援につながらない子ども・若者の「声なき声」の分析を行うために、支援者へのウェブ調査とインタビュー調査を行った。得られた結果を外部の研究者の協力のもと分析し、「支援につながらにくい要因」を明らかにした。



特定非営利活動法人  
きょうとNPOセンター  
中村 正

## 効果的な市場導入手法の検証 副業を促進し福祉職就労基盤の強化を目指す

京都府内において、福祉現場への副(福)業導入を進めるにあたり、どのように政策設計を図ることで、「副業導入による文化的(慣例的)壁を効果的に乗り越えることができるか」について、委員会を形成し、「より効果的な市場導入手法の検証」を行った。

## ペット産業の社会的責任調査 ペットショップの社会的責任評価



特定非営利活動法人  
人と動物の共生センター  
奥田 順之

日本全国では犬猫が約4万頭殺処分されている。また、ブリーダーや飼主による不適切な飼育が行われている現状がある。課題の解決には、生体販売の中心的プレイヤーであるペットショップがCSRに対する意識を高めることが必要との仮説に基づきアンケート・ヒアリング調査を通じてCSRの取り組み状況について明らかにした。



NPO法人  
岡山ニャンとかし隊  
廣畑 佐知子

## カイ猫をノラ猫にしないために 岡山飼い猫実態調査

岡山県岡山市において「猫の終生飼養を支えるサービスの構築」の新事業を行うにあたり、猫を飼っている人がどのような意識をもっているか、またどのようなサービスを望んでいるのかを先進地視察やヒアリング調査で明らかにした。

## 空き家活用でつくる、持続可能な子育てママの活躍の場



特定非営利活動法人  
Cloud JAPAN  
村松 ももこ

宮城県気仙沼市において、子育てのママに対して子育てしにくい理由の現状把握をするため、アンケート調査を実施。アンケート調査を通じて、気仙沼市の地域における「子育てしにくい」理由を明らかにした。

## 森の棚おろし 地域優良材フェアトレード社会実験



兄弟木の駅会議  
丹羽 健司

愛知県岡崎市額田地域にて、地域の優良材(枝打ち材)の品質と量の賦存量調査を実施し、持続的供給可能量を算出した。その結果を踏まえ、木の駅、林業クラブ、森林組合、製材所、工務店が連携して、地域の優良材を正しく評価し流通させる手法「リタウッド」を確立した。



## 山業習得・山人養成学校 阿仁の山を最大限活かす技を学び山で生きる



一般社団法人  
大阿仁ワーキング  
松橋 悦治

秋田県北秋田市大阿仁地域という奥山に抱かれたマタギ発祥の地でもある豪雪地域での、山の恵みを活かした生業を学ぶ学校(山業学校)の開設可能性を探るヒアリング調査をおこない、ニーズや地域人材を明らかにした。



## 中学生の適材適所進路ナビ 進路情報のプラットフォームをつくる



Connections For Children  
水木 千代美

大阪府において、中高生、教員等へヒアリングを行い、中学生が進路選択にあたって置かれている状況を明らかにした。また、大阪府内の学ぶ内容や時間に特色のある17の高校の調査、在校生等へのヒアリングを実施し冊子にまとめた。



特定非営利活動法人  
ホールアース研究所  
福島事務所  
杉澤 莉子

## 若者と地域の有力者をつなぐ 住民の実態調査を通じたコミュニティづくり

福島県の中山間地域である湖南町において、地域活動に対してやる気のある若者の存在を可視化する調査を実施。アンケート・ヒアリング調査を通じて、地域のために活動したいと考えている若者の実態が明らかとなった。



雪の日舎  
佐藤 可奈子

## 中山間地域の農業を変える！ 農地とひとの新しいマッチング

新潟県十日町市を中心にママ農家20~80代にどんな子育てと農業をしてきたか、聞き取りやアンケート調査を実施し、しごと・こそだてを地続きにした農業の可能性を可能性を検討し白書にまとめた。



# 地域の 変化解剖録

トヨタ財団国内助成プログラムでは、これまで多様な人や組織の方々が手を取り合い、それぞれの力を持ち寄ることで地域課題の解決に取り組む活動を応援してきました。今回の企画では、これまでの助成事例の現場から見てきた「地域が変化した転機」を、コミュニティに欠かせない「登場人物」を解剖しながらご紹介します！



## イベントや報告会に 必ず参加してくれる人

イベントや報告会を開催すると必ずと言っていいほど参加してくれる参加者。活動に対してもいつもポジティブなコメントをくれ、差し入れなどもしてくれる。



## メンバーをまとめる ボランティアリーダー

ボランティアの中で特に決めた訳でもないが、突然現れるボランティアリーダー！ボランティアの取りまどめを積極的に行ってくれる。



## 知識豊富な 年配者

活動に行き詰まった時や、困ったことがあると、長年の経験に基づく画期的なアイデアや、ノウハウを提供してくれる！



## 空気を読む ちびっこ

侃々諤々の議論も、深刻な話題も、絶妙なタイミング泣き出すちびっこがいたらチャンス！子どもを中心に話をすると、時に利害関係も超えていける！



## 頼りないリーダーを支える 隠れリーダー

しっかり者のリーダーより、時に頼りなさを感じるリーダーの周りに人が集まることも。その陰には、そっと支えるしっかり者の「隠れリーダー」が居ます。



みなさんの地域にも変化をもたらすユニークな登場人物は居たでしょうか？地域でプロジェクトに取り組む人も、これから取り組もうと考えている人にも、素敵な出会いがありまじょうに！仲間と一緒に地域づくりを楽しんでくださいね！

面白くなってきた！  
ワクワク！



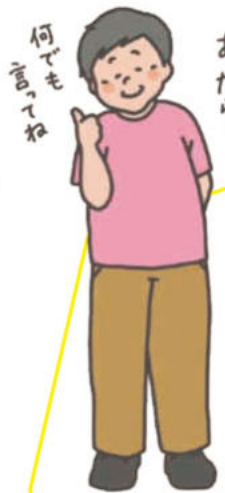
### 自分事化しちゃった行政マン

最初は担当業務で関わっていた行政の職員も、自分の暮らす地域の課題に出会う中で、どんどん自分事化してきて…？気がつけば一個人として、活動を支える側に参戦！



### 面倒見のいい社長さん

若者と触れ合ううちに地域の若い担い手を育てることが、地域企業にとっても大切な取り組みと感じた経営者。兄貴のような存在で若者たちを見守る存在に！



### ふとっぱらなおっちゃん

ふるさとを思う都会暮らしの地元出身者。活動の理念に共感し、ふるさとのためになればと寄付で応援。「君たちに賭ける」とサポーターへ！



### 未来の担い手を支えるナナメの存在

行政職員や企業の社員など、ちょっと(?)年上のお兄さん・お姉さんたちは、タテ・ヨコと共に「ナナメの存在」として、地域により丈夫な編み目を張り巡らせる！



### 未来の担い手候補

今はまだ活動の「参加者」に留まっているケースも多いけど、のちのち「参画者」になる兆しも…？「地域の未来は私たちが担う！」と立ち上がる！

大好きな故郷に  
恩返しをしたい！



私も、  
やってみたい！

年齢や性別、  
職業が

僕にできることが  
あったら、

何でも  
言えな

若者よ！  
一緒に未来を

創ろうじゃないか！

# 2016・2017年度 助成を振り返って



国内助成プログラムでは、2014年度から「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ—地域に開かれた仕事づくりを通じて—」をテーマとして、地域の課題解決に取り組む事業とその担い手を育てることを趣旨に全国を対象として公募で助成（現「そだてる助成」）を行ってきました。

2016年度には、プログラムを見直し、新たに「しらべる助成」というカテゴリーを設けました。「しらべる助成」は、事業の本格実施に向けた調査および事業戦略の立案に対して助成を行うことを目的としています。地域の課題解決を実現するためには、まずは地域や取り組む課題、それに関わる当事者のことを知るという原点が大切であると考え設定したものです。

「しらべる助成」の助成対象となった団体の中には、当初「そだてる助成」への応募を検討されていたものの、当財団との対話を通じてまずは「しらべる助成」へ応募した団体もあります。そうした団体からは、「しらべたことで優先順位が明確になった」「調査で裏付けされたことが自信につながった」「調査の過程で世代を超えた課題共有ができた」といった意見も寄せられています。

市民活動において準備段階（課題や地域の現状を調べること、関係者と対話すること、ニーズを把握すること）の取り組みは、これまであまり重視されてこなかった印象もありますが、その後の活動を左右する重要なプロセスであると私たちは考えます。国内助成プログラムでは、こうしたメッセージを今後もプログラムを通じて伝えていきたいと思っています。

これまでに「しらべる助成」の助成を受けた団体は、52団体（うち20団体は2019年4月からスタート）に上り、6団体が「そだてる助成」の助成を受けて事業を進めています。調べたことがすぐに事業につながらないケースもありますが、取り組みを進める中で行政からの支援につながる、活動の参加者が増えるなど、調査と対話のプロセスが成果につながる事例が多数確認できています。

さらに、2017年度には過去の助成先に限定した「発信・提言助成」というカテゴリーも新設しました。助成先への聞き取りから、課題解決のためには社会の価値観や仕組みの変革に挑むフェーズも必要になることを実感し、これらの目的の達成をめざして過去の助成の成果を基に実施する政策提言・社会提案の活動に対して助成を行っています。初めての助成対象となった「プロジェクト保津川」（本誌38・39ページに掲載）は、2008年度に当財団の助成を受け、ごみマップの開発と住民参加の川ごみ調査を実施しました。その後、活動が広がり、「発信・提言助成」では行政と共にプラスチックごみの問題に挑み、亀岡市は2018年12月13日に「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を行い、日本で初めてプラスチック製レジ袋の使用を禁止する条例の制定をめざすことで大きな話題となりました。



今回発行する成果報告書は、現在の国内助成プログラムで実施している「しらべる助成」「そだてる助成」「発信・提言助成」の3つの助成カテゴリーにおいて、それぞれの助成対象事例を掲載する初めての機会となりました。「暮らしの場である地域社会では、地方／大都市圏を問わず、コミュニティの持続可能性の危機への対応が急務」という問題意識に基づくプログラムに対して、毎年全国より多数のご応募をいただいていることに感謝申し上げます。このテーマの重要性がまだまだ高いものであると捉えています。日本社会が直面する課題を乗り越え、さらにはその在り方を問い直して新しい価値の提案や創造につながるよう先駆性や躍動感ある営みが全国各地で展開されることを期待し、本プログラムがその一助となることを願っています。



## 選考委員長よりメッセージ



立教大学教授 萩原なつ子

「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ」をテーマとした助成プログラムがスタートした2014年は、日本創生会議が「消滅可能性都市」を発表した年です。日本の自治体のほぼ半数が消滅するとされたため、日本各地に衝撃が走りました。

少子高齢化が進み、地域が抱える課題は多様化する中、課題解決と持続可能なコミュニティの担い手として若者への期待が膨らみました。そのような社会的背景のもと、本プログラムは地域資源を活用し、着実に地域・社会に変化を生み出し、新しい価値を創造する“仕組みづくり”、“しごとづくり”に取り組む若者たちと地域のエンパワメントを目指し、支援を行ってきています。

本プログラムの特徴は、より地域の活性化や人材育成に資するように助成の枠組みを柔軟に変化させてきていることです。たとえば、2016年度には新たに地域のあるもの探し、課題発見を目的とした「しらべる助成」と実装段階の事業を支援する「そだてる助成」の二つの枠組みとし、また2017年度からは助成により得られた成果を社会に還元する事業を支援する「発信・提言助成」を設けました。今後も地域に暮らす多様な人々の持つ力を引き出し、未来可能性のある社会を創り出すための助成プログラムとして、社会状況や多様なニーズに応じた進化を期待しています。そして、活発な議論の末選考委員会で選定された多様性にあふれる、ユニークで、かつ先駆的な活動を展開する助成対象チームのさらなる飛躍を願っています。

最後になりましたが、かつてトヨタ財団アソシエイト・プログラムオフィサーとして国内初と言ってもよい市民の活動を支援する助成プログラムに携わってから、ほぼ四半世紀を経た2014年から5年間、当時の助成プログラムの流れをくむ本プログラムに選考委員長として関わらせていただいたことに対して、心より感謝の気持ちを表したいと思います。

## 担当者メッセージ

「担い手育成」というテーマで助成をはじめた3回目の成果報告書です。今回の報告書は「担い手」を可視化することに重点をおいてまとめています。改めて一人のヒーローを生み出すのではなく、多様な人の出番と関係づくりが地域を豊かにするのを感じました。

喜田 亮子

現場を拝見できていないプロジェクトも多々ありましたが、書面からでもそれぞれの問題意識に基づいた試行的で先駆的な取り組みの魅力を感じていただけたらなりました。今後も魅力的な取り組みが全国各地で展開されるよう、それに応えられるプログラムを創ってきたいと思います。

武藤 良太

日常の活動と並行しての成果報告書の制作へご協力いただき本当にありがとうございました。皆さまのおかげで今年も素晴らしい報告書が完成しました！

石井 恵子



昨年トヨタ財団に入職して初めて成果報告書に関わるようになりました。プロジェクト開始時には、関わる事が出来ておりませんが現場のプロである皆さんの活動から学びや気づきが多く、それを今後の助成事業に活かしていきたいと思っています。

比田井 純也

今年も各地で活動を担う「担い手」の輪が多様な形でゆるゆると広がりをを見せていますね。個人的にはこの「ゆるゆる」が大切なかなと感じています。様々なヒントの詰まったこの報告書が、各地で頑張る多くの団体の手に今年も「ゆるゆる」と届きますように！

鷲澤 なつみ